

丹波中学校だより

清流の辺

せい りゅう ほとり

平成27年11月24日(火)

No. 14

文責 丹波中学校長 梶原勝由

国際宇宙ステーション講話

11月19日(木)、小中合同で国際宇宙ステーションについて学習を深めました。講師の宮川広氏の話は興味をそそり、くいいるように聞いていました。国際宇宙ステーションは、地上約400km上空に建設された、人類史上最大の宇宙施設だそうです。この計画にはアメリカ、ロシア、ヨーロッパ、カナダ、日本の15ヶ国が参加しており、各国が最新技術を結集したこの国際プロジェクトに、日本も「きぼう」日本実験棟や宇宙ステーション補給機「こうのとり」などで参加しているそうです。



『学力向上の集い』に参加して

11月19日(木)、都留文科大学に於いて「学力向上の集い」がありました。その資料の中に、作家の重松清氏のエッセーがあり、考えさせられる文でした。掲載

しますので、是非、子育てについてもう一度、考えていませんか。

みんな、生まれて初めての連続、親子ぶつかり合い、互いに成長

中学生の一人息子を持つ父親・Sさんの話である。何かにつけて扱いづらい年頃の中学生、Sさんの息子もご多分に漏れず親や先生に反抗し通しで、Sさん、ほどほど手を焼いて、自分の子育てにすっかり自信をなくしていたのだという。

ある夜、Sさんは息子をこっぴどく叱った。どうして親の気持ちを分かってくれないのか、どうしてし素直になってくれないのか…。情けなさともどかしさの余り、Sさん、ついに息子に手をあげてしまった。

すると、息子は猛然と抗議に出た。父親の体罰をなじり、ふだんの口うるささに自分が如何に苦しめられているかを訴えて、こんなふうにした。「文句ばかり言うなよ！俺、生まれて初めて中学生やってるぞ！」

Sさん、啞然とした。呆然とした。屁理屈にもほどがあるではないか…。だが、次の瞬間、売り言葉に買い言葉で、Sさんは思わず怒鳴り返していた。「うるさい！お父さんだって、中学生のおまえを育てるのは生まれて初めてなんだ！」

息子もきょとんとした顔になった。お互いに言葉が途切れた。ぽかん、と抜けたような沈黙がしばらく流れた。そして、二人はどちらかともなく笑い出した、という。

親も子どもも、ともに「生まれて初めて」の日々を生きている。いや、人生そのものが「生まれて初めて」の連続ではないか…。

「そう考えると、急に肩の力が抜けて楽になったんだ」とSさんは僕に言った。最近のSさんは、息子を叱るときも「なんでこんな簡単なことがわからないんだ！」と嘆くのではなく、「お父さんもおまえも『生まれて初めて』なんだから、ここできっちりぶつかり合っておかないとヤバいんだぞ！」という気

持ちで向き合うようになったのだという。

「育てる」ということを思い描くとき、僕たちはつい、自分をゴールのそばに置いてしまう。一歩ずつこっちに向かってくる子どもを待ち構えて、正しい道を進むように導くことが「育てる」ことなんだ、と。

でも、ほんとうはそうじゃないのかもしれない。大人も子どもの「育つ」側も「育てる」側も、みんな「生まれて初めて」の日々を生きている。大人は自分自身の「育つ」を終えてから子どもを「育てる」ことを始めるのではない。大人だって、育てながら育っている。人生の長い道のりの途上にいることは、大人も子どもも同じなのだ。

ならば、試行錯誤もあるだろう。失敗して悔やむことだってあるはずだ。かまわないじゃないか、そんなの当たり前ですよ一あえて、そう言うておきたい。子育ての「正解」を見付けられない自分を責めて、悩み苦しんでいる親がたくさんいる時代だからこそ。

人生を何度でもやり直すことができるなら、「正解」の数は増えるだろう。でも、それができないから、すべては「生まれて初めて」であり「最初で最後」だから、生きることはちょっと哀しくてすごく愛おしい。

僕は今年「生まれて初めて」42歳になる。二人の娘たちも、それぞれ「生まれて初めて」中学3年生と小学3年生になる。今はまだまっさらな2005年のカレンダーに、我が家の「生まれて初めて」の日々は、どんなふうに刻まれていくだろう。ぶつかったり、すれ違ったり、悔やんだり…家族で笑い合える日が一日でも多ければ、いいな。

研究授業(国語科)一理沙先生、分かる授業の実践一

11月9日(月)、理沙先生が率先して研究授業を行いました。2年生の国語「きずなを読むー心情を考え、友だちと交流しようー」をねらいにし、向田邦子「字のない葉書」を教材にして行いました。この授業には、丹波小の教頭先生、富士・東部教育事務所の指導主事2名も参観くださり、様々な観点から助言をいただきました。理沙先生は勿論のこと本校職員にとっても多くの収穫がありました。今後の教育実践に生かしていきます。



県新人卓球大会(個人戦)

11月8日(日)、一宮桃の里体育館に於いて県新人戦卓球大会(個人戦)がありました。本校からは3名が出場しました。残念ながら1回戦敗退でしたが、大きな大会に出場することで心が鍛えられました。この経験を生かし、来年度に向けて、さらに練習に励んで欲しいです。

